

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 福島県立たむら支援学校 】

1 実践テーマ	①・II・③・④・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	1年 12名 2年 14名 3年 13名 計39名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 総合的な探求の学習 保健体育科 ) ② 行事名 ( 第1回校内ボッチャ大会 第2回校内ボッチャ大会 ボッチャ講演会 ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	1 ボッチャ競技の練習や試合を通して、生徒同士の親睦を図る。 2 パラリンピックに関する講演会を行い、パラリンピックに関する理解を深める。 3 今後、東京2020オリンピックパラリンピック大会のレガシーとして、ボッチャ競技が本校に根付くように計画を進める。
5 取組内容	1 第1回校内ボッチャ大会 令和3年7月9日（金）、たむら支援学校高等部にて、第1回校内ボッチャ大会を実施した。6名程度のクラス対抗で予選リーグと決勝リーグを行い、順位を決め、表彰を行った。事前学習では、体育の時間や総合的な探求の時間で、パラリンピックに関する知識を深め、ボッチャの練習を行い、話し合い活動や技術、チームワークの大切さを学ぶことができた。クラス対抗で競い合い機会が少ない中、団結を深めるよい機会となった。事後学習での反省では、「ボッチャは奥が深い競技であることを知ることができた」、「誰でも気軽に取り組むことができる競技であることがわかった」、「良いプレーなどでとても盛り上がることで楽しかった」などの反省が挙げられた。



## 2 ボッチャ講習会

令和3年12月3日（金）、日本ボッチャ協会所属でパラリンピックボッチャ競技日本代表ヘッドコーチの村上光輝氏と福島県障がい者スポーツ協会より丸山内雄大氏を講師に迎え、ボッチャに関する講演会を行った。パラリンピックのボッチャ競技の様子を動画で振り返ったり、実際に使われたユニフォームやパラリンピックゆかりの品々に触れたりするなど、パラリンピックやボッチャ競技への理解を深める貴重な機会となった。また、今大会で金メダル獲得するまでの話では、普段の生活から見直し、規則正しい生活を心がけ、ルールをしっかりと守ることや食事の摂り方、思いやりの心を常にもつことの大切さなどの説明があり、生徒は自らの生活に生かそうと真剣な表情で聞き入っていた。



## 3 第2回ボッチャ大会

令和3年12月3日（金）上記のボッチャ講習会の後、第2回校内ボッチャ大会を実施した。クラス対抗で行った。2名の講師の方々も教員チームで参加していただいた。

試合の途中に、生徒が話し合いで悩んでいる様子が見られると、村上氏は生徒をボールの近くに集め、具体的に狙う場所を助言していた。生徒は、2手、3手先のことまで考えて作戦を立てられることができるようになった。閉会式では、丸山内氏より、昨年度に比べ技術が大きく向上しているとの講評をいただいた。

生徒は、高等部卒業後、ボッチャ競技を通して運動に親しむことができる資質や能力を身につけることができた。



## 6 主な成果

目標に対して

1 合計3回のボッチャに関する学習で、特に、チームワークの向上と話し合い活動の充実が挙げられる。事前学習では、チームの作戦について話し合い活動を意識した授業を行った。意見を他人へ伝えることを苦手としている生徒もいるが、そのような生徒が、ボールを投げる際に、友達にコースを確認したり、称賛の声を伝えたりする姿が見られた。

2 百聞は一見に如かずということわざがあるが、テレビの画面越しであったパラリンピックボッチャ競技が、村上氏の講演により鮮やかな色彩をもって生徒の心に届いたように見える。事後学習では、「話し合いができた」「ルールや進め方がよくわかった」「とても楽しかった」「またやりたい」との反省が多く見られた。

3 東京2020オリンピックパラリンピックのレガシーとして根付くように、本校では積極的にボッチャ教育を学校の教育活動に取り入れる。今後は、小学部や中学部との学部間交流でもルールを簡素化して実施するなど、小学部から高等部までの交流活動としての取り組みを行っていく。高等部は普通高等学校と同じ校舎を使用しているため、高校との交流活動が多く行われるが、交流活動でも積極的にボッチャを行っていく予定である。

## 7実践において工夫した点(事業の特色)

- ・知的障がいをもつ生徒でも、ボッチャを楽しむことができるようルールを簡易化して実施した。

- ・校内ボッチャ大会に関しては、ルールの理解だけでなく、作戦を立てるための話し合い活動まですすめられるように7月、12月の年2回設定した。

- ・パラリンピックを身近に感じることができるよう、パラリンピックボッチャ競技日本代表ヘッドコーチの村上氏を講師に迎えたく、その実現のために福島県障がい者スポーツ協会の協力を得ながら日程などの調整を進めた。

- ・生徒たちが集中して活動したり話を聞いたりできるよう、ゆとりある時間設定をし、動画視聴、講演、実技に分けて行えるようにした。

<p>8 主な課題等</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 特別支援学校のため、ルールを簡易化して実施しているが、段階的に理解を深めて、正式ルールでの実施を実現したい。</li> <li>2 チームメイトとの話し合い活動が積極的にできるようになってきたが、実際生活で生かすために、他教科との連携を計画的に実施していく必要がある。</li> <li>3 スムーズな大会運営と各学部での練習のためにボールを必要数確保したい。(3セットが必要だが、本校には2セットしかなく、他校や福島県障がい者スポーツ協会から借用しているため、講演会からの支援を得て購入を考えている。)</li> </ol>
<p>9 来年度以降の 実施予定</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 東京2020オリンピックパラリンピックのレガシーとして、校内ボッチャ大会の継続や学部間交流、高等学校との交流事業を計画し積極的に推進していく。</li> </ol>